

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立寺尾中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実施内容

■期 日 : 2020年12月9日(水)

■ク ラ ス : 2年1組(36名)、2年2組(36名)

■オリンピアン : 太田 陽子 先生(陸上競技)【出場オリンピック/シドニー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・今日は運動と座学の時間の2つの授業があり、運動の時間ではオリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)を考えながら取り組むこと、また、3つの約束事(全力を出すこと、協力すること、相手のことを考えること)を守り、怪我をしないように注意すること、無理をしないことを伝え、準備運動に移る。

3. 主運動



・立幅跳リレーを実施。班毎に立幅跳の合計距離を競う。立幅跳のやり方を確認した後、太田先生からコツ(足は肩幅くらいに広げ、膝をしっかりと曲げ、体を投げ出すように跳ぶ)を伝え、練習した後に1回目を実施。

4. まとめ



・チームが勝つためには、協力をする事、チームメイトがどういう風にしたらもっとできるか等を考えたりすることが、オリンピックバリューのフレンドシップにつながる。全力で取り組むことができたかを尋ね、多くの生徒が手を挙げた。今後の生活の中で、何事にも全力を出せるように取り組んで欲しいと伝え、座学の授業ではこのオリンピックバリューを深掘りしていくと説明し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・クーベルタンの写真を見せながら、第1回近代オリンピック競技大会が1896年にアテネで開催されたこと、オリンピックシンボル等について説明した後、心に響いた言葉として「より速く、より高く、より強く」という言葉を紹介し、何かに取り組む時は他人と比較するのではなく、過去の自分より向上しているかを比較することが大事であると伝える。

3. グループワーク



発問：運動の時間や普段の生活から感じたこと等をオリンピックバリューと重ね合わせてまとめてみよう。
 発表：エクセレンス：「全力で取り組みながら楽しむ」「部活の練習中や試合で結果を出すために全力で取り組む」等
 フレンドシップ：「給食を早く食べられるように協力して準備する」「相手の個性を尊重する」等
 リスペクト：「先輩に敬意を払う」「日々支えてくれる方に感謝する」等

4. まとめ



・オリンピックは皆にとって別世界に感じるかもしれないが、選手として出場する以外にも、観客やボランティア、トレーナー、競技用具の製造等、様々な形でオリンピックに関わることができる。オリンピックを身近に感じ、皆がスポーツを楽しんでくれることを期待している。これから自分のやりたいことを見つければと思うが、すぐに夢や目標を達成できなくても、努力した経験が後から結果として返ってくることもある。自身も失敗を繰り返した末に、オリンピック競技大会への出場という夢を叶えることができた。皆もいずれ成功につながることを考え、着実に一歩ずつ階段を上って行って欲しいと伝え、授業終了。

■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



■ 修了証贈呈

